

今年、聖徳太子が薨去されて1400年の御聖忌を迎え、また四天王寺学園の創立100周年に当たります。太子が日本に仏教を導入されて1400年、太子信仰とその思想は、私たち日本の歴史や文化の中に連綿として受け継がれてきました。勿論、太子信仰やその思想が今日まで受け継がれたのは、それが各時代に於いて人々の心の救済や時代的ニーズに応じて来たからに他なりません。今回は、そういった点に着目しながら、歴史的また社会的に見られる太子信仰やその思想の特徴、その意義などについて多面的に考えてみたいと思います。

6/4(土)

## 【A】聖徳太子信仰と四天王寺 &lt;その1&gt;

13:15~14:45

—古代から中世の四天王寺をめぐって—

南谷 美保 教授

聖徳太子信仰の聖地とされる四天王寺の歴史と、四天王寺が政治や文化の中で、どのように位置付けられたのか振り返り、聖徳太子の時代から中世に至る時代の四天王寺において、どのように聖徳太子信仰が発展したのかを考えてみましょう。

6/25(土)

【B】<sup>ひじり</sup>「聖」としての聖徳太子

13:15~14:45

—日本仏教における太子像—

藤谷 厚生 教授

日本書紀の推古記には、聖徳太子が「聖」の皇子であるとする記事が見られます。本講では聖という概念とは何か、また日本仏教の歴史に於いて、太子はどのようにとえられてきたのかを、様々な資料をもとに考えてみます。

7/16(土)

## 【C】聖徳太子の思想と救済

13:15~14:45

—グリーフケアの視点から—

西岡 秀爾 講師

太子の四箇院創設をはじめとする衆生救済は、わが国の社会福祉の源流といえます。「独断」を避け、「和（分かち合い）」を重んじたその心は、今なお様々な「悲嘆（グリーフ）」を抱える人たちにとっても支えとなることでしょう。

9/3(土)

## 【D】聖徳太子信仰と四天王寺 &lt;その2&gt;

13:15~14:45

—人々の聖徳太子への想い—

南谷 美保 教授

飛鳥時代からの長い歴史の中で、何度も伽藍を失いながらも、復興を遂げてきた四天王寺。江戸時代から現代までの歴史の中に示される四天王寺と聖徳太子に人々が寄せた想いをたどってみましょう。

9/24(土)

## 【E】聖徳太子の思想と信仰

13:15~14:45

—現代社会におけるその意義—

藤谷 厚生 教授

聖徳太子が著された三経義疏や十七條憲法をもとに、太子が説かれた大乘仏教の思想や信仰の特徴を考えるとともに、1400年を超えた現代社会に生きる私たちが何を学ぶべきか、その意義についても考えてみます。

## 受講申し込み方法

令和4年度

お電話でお申し込み

電話番号

072-956-3345

〔受付時間〕

9:30~17:00(日曜・祝日を除く)

受付完了

ご自宅へ関係書類をお送りします。

受講

受講初回は地域連携推進センターへお越しください。  
教室をご案内します。(2回目以降は変更案内が無い限り同じ教室)